

自己点検・自己評価項目  
(2024年04月01日)

UIEC UIEC

浦和国際教育センター (UIEC)  
理事長 秋本秀樹

## 自己点検・自己評価項目

5：達成している 4：ほぼ達成している 3：どちらともいえない 2：取り組みを検討中 1：改善が必要

1. 教育理念・目標等	評価
1-1 教育理念・目標の設定	5
1-2 教育理念・目標の点検・見直し	5
1-3 将来構想	5

## 現状・具体的な取り組み・課題

本校は、日本の大学院、大学、短期大学あるいは専門学校へ進学を希望する外国人に対する日本語教育を行い、日本の文化・社会に対する正しい理解を深め、もって日本及び国際社会の発展に寄与する人材を育成するという理念のもと2003年4月の創立以来、外国人人材を日本社会や世界に送り出してきた。この目的を実行するために、本校では学習到達レベル別のクラスを設置し、高等教育機関進学に不可欠な日本留学試験・日本語能力試験に合わせたカリキュラムを採用している。

また本校の学習者は中国、台湾、ベトナム、タイ、インドネシア、フィリピン、インド、ミャンマー、ネパール、サウジアラビア、イラン、パキスタン、エジプト、カメルーン、アメリカ、イタリア、コロンビア等、世界の多くの国や地域からの留学生を受け入れている。サウジアラビアにおいては、その進学実績が評価され大使館の推薦する日本語教育機関に選定されている。

今後の構想として以下に注力する。

- 1：学習者の多様な進学ニーズに応えるべくアカデミックジャパニーズの幅と質のさらなる向上。
- 2：従来の就職希望者に加え、特定技能へ移行を希望する学習者のための付加的な日本語授業の充実と特定技能試験の支援体制も整備し、外国人人材の日本社会への就労にも貢献する。

2. 教育活動	評価
2-1 学生の受入れ	
2-1-1 学生募集・入学者選抜の方針・方法	5
2-1-2 学生定員充足状況（入学者数, 在学者数等）	4
2-2 学生生活への配慮	
2-2-1 奨学金制度（独自の褒賞金）	5
2-2-2 授業料減免の状況	5
2-2-3 住居状況	4
2-2-4 学生生活相談（アルバイトを含む）	5
2-2-5 課外活動	5
2-3 カリキュラムの編成	
2-3-1 カリキュラムの編成方針と教育理念・目標との関係	5
2-3-2 進学対策教育の内容とカリキュラム全体における位置付け	5
2-3-3 カリキュラムの編成及び見直しの方法	5

## 2-4 教育指導の在り方

2-4-1 各授業科目の授業計画（シラバス）の作成状況	5
2-4-2 カリキュラム・ガイダンスの実施状況	5
2-4-3 教員 1 人当たりの授業時間数	5
2-4-4 各試験等の実施状況	5
2-4-5 視聴覚教育の実施状況	5

## 2-5 教授方法の工夫・研究

2-5-1 教授方法の工夫・研究のための取り組み	5
2-5-2 教員の教育活動に対する評価の工夫（学生による授業評価等）	5

## 2-6 成績評価，単位認定

2-6-1 成績評価，単位認定の在り方・基準	4
2-6-2 日本留学試験(EJU)結果の分析と対策	5
2-6-3 日本語能力試験(JLPT)結果の分析と対策	5
2-6-4 卒業生の進学状況	5
2-6-5 卒業生の就職状況	5

## 現状・具体的な取り組み・課題

さいたま市及び日本財団と連携してウクライナ避難民を受入れ、さいたま市からの受入れに関しては、2年間の学費（教材費含む）を免除し、ウクライナ避難民の支援を実施している。

私費留学生学習奨励費は学内選考基準により透明性のある選考を実施し、日本留学試験と日本語能力試験の成績優秀者への褒賞、進学先による褒賞、出席率優秀者への褒賞も設けている。また、高考点数と日本語能力試験取得者に対する入学減免制度も設けている。

生活指導担当は学生の学習状況と生活状況を把握し、問題がある場合は速やかに個人面談を実施し早期解決に努める。学生寮も定期的に巡回し、生活状況を把握し適切な指導を遂行する。資格外活動の調査に関しては、年2回（6月末・12月末）の調査により各学生の資格外活動状況を適切に把握する。全ての入学者は非常時に備え、公共機関における防災訓練に参加する。また、学生間及び学生と教員間の結束を強めるため学内発表会や校外授業を適切な時期に実施している。

カリキュラムに関しては、2年次6月の日本留学試験と12月の日本語能力試験を優先したカリキュラムを実施している。進学先により優先する試験が異なるため、2年次4月より選択授業制を取り入れ、各学生に最適な対策授業を遂行する。最新の授業計画はHPで公表すると同時に、各コースの在籍期間における到達度も提示している。専任教員は日本語教授と同時に、進学指導も担う時期があることから、これを考慮した授業時間数を受け持つ。本校の定期試験は到達度に応じた試験であり、学内の試験に加え到達度に見合った日本語能力試験模試を実施している。自習室を含む全ての教室にプロジェクターを常時設置し学習の効率化と活性化を図る。

学習の評価に関して告示基準で認定を受けている評価に加え、CEFRにおける評価も視野に入れ、評価のための試験改定に取り組んでいる。

クラス間や過去の試験との平均点、標準偏差等のデータを比較することで適切な学習評価を遂行できる。日本留学試験対策と日本語能力試験対策は、選択授業制度により学生に合った対策試験と対策授業を提供している。試験後は、各項目（文字語彙・読解・聴解・聴読解）の点数と学内の標準偏差を分析し、不得手な分野を明確にして次の試験に備える。留学試験課でその役職を担っていた当校の非常勤顧問による対策授業も非常に有効と考える。進学状況と進学先、就職状況はHP上に公表する。

住居（学生寮）は、学校から徒歩圏の民間アパートを借り上げて学生の寮としてきた。この数年で、浦和（浦和駅・さいたま市浦和区）は、住みここの良い街として知られ、浦和駅周辺・学校周辺の物件を確保することが非常に難しい状況となってきた。少し遠い（浦和駅の隣の駅等）物件を寮とせざるを得ない状況となっており、寮の安定確保が引き続き課題となる。

3 教員組織	評価
3-1 専任教員・非常勤講師の配置状況	5
3-2 教育補助者、研究補助者の配置状況	5
3-3 年齢構成、性別構成	5
3-4 採用、昇進の手順・基準	5
3-5 教員の兼職の方針と状況	5
3-6 教員人事についての長期計画	5

#### 現状・具体的な取り組み・課題

現定員数(298名)に対し、定員必要教員数を超える人数で運営し、学習の質を維持向上させている。校長、主任教員が教員組織の中核を担うが、東京日本語センター及び大阪日本語センターの前センター長である非常勤顧問による客観的な助言により、適切な教育を遂行している。教員の年齢構成は20代～70代と幅広く、性別構成は女性70%、男性30%となっている。教員の採用においては書類審査と面接、模擬授業を実施する。非常勤教員の兼職は認めるが、他校における勤務時間数の届け出を必要とする。専任教員の50%は新卒採用であり、長期にわたり当校に勤務し、学校を担う総合的な職務能力を養って欲しいと考える。

4 施設設備	評価
4-1 施設設備の整備・運用状況	5
4-2 図書館・自習室の利用状況	5

  

5 管理運営，財政	評価
5-1 事務組織	5
5-2 予算の編成と執行の方針と状況	5

6 自己評価体制	評価
6-1 自己評価を行うための組織	5
6-2 教育成果(EJU、JLPT、進学先等)の公表	5
6-3 評価をフィードバックするためのしくみ	5